

令和2年度第1回白河市子ども・子育て会議 会議録

日 時： 令和2年7月30日（木） 午後6時

場 所： 白河市産業プラザ人材育成センター 講堂

出席者： 片野千春委員、高橋正訓委員、鈴木純委員、十文字光伸委員、藤田慈孝委員、鈴木栄一委員、樋口葉子委員、永野美代子委員、國井保子委員、浅賀秀寿委員（10名）

●白河市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式

・副市長より、各委員に委嘱状を交付した。

●令和2年度第1回白河市子ども・子育て会議

1 開会

2 子ども・子育て会議について

・事務局より、会議の趣旨を説明。

3 自己紹介

4 役員選出

・会長を樋口葉子氏、副会長を鈴木純氏にすることについて承認された。

5 協議

(1) 白河っ子未来応援計画の策定について

事務局より、白河っ子未来応援計画の策定について説明。

委員：アンケート調査を本人が記入するかたちでは、本当のことが分からないのではないか。

事務局：アンケート調査は無記名となっており、誰が回答したかは分からないので、正直な回答をいただけるものと考えている。

(2) 白河市子ども・子育て計画の進行管理について

事務局より、白河市子ども・子育て計画の進行管理について説明。

令和2年度新規・拡充事業について事務局より説明。

(白河っ子すくすく赤ちゃんクーポン券支給事業・クラウドワーカー育成事業)

委員：子ども・子育て計画で対象としている子どもの定義は何歳までか。

事務局：0歳から18歳の高校生までである。

委員：子ども・子育て計画書を見ると、幼稚園児や小学生を対象にニーズ調査しているので、幼稚園児や小学生をメインに支援していくということか。

事務局：そのとおりである。

委員：クラウドワーカー育成事業とは何か。また、パパママ講座を廃止したのはなぜか。

事務局：商工課の事業であり、詳細については把握していないため勉強させていただきたい。

事務局：クラウドワーカー育成事業は、子育てで外に出て働けない方が、在宅で働くことができるように、企業がインターネットを利用して、不特定多数の人に、仕事を委託できるシステムのことである。

事務局：パパママ講座を廃止した理由は、P16にある通り、医療機関でパパママ講座と同じ保護者を対象にした講座を実施しているためである。また、フォローが必要なケースについては、教室の中では指導が難しく、全体性よりも訪問や電話をするなどの個別対応が必要である。最近では、妊娠中から助産師が訪問しているケースが増えている。母子手帳を交付する際、生活リズムや食事、愛着形成について、福島医大の横山教授と協働で作成した市独自のチラシを配付している。

委員：父親への支援がなくなって来たのではないか。

事務局：父親に来所いただいたときには、妊婦と一緒に妊婦のケアや、今後の関わり方についてお話させていただいている。来所いただけない場合でも、父子健康手帳を配布し、父親に読んでいただくように、妊婦を通して話をさせていただいている。

委員：子ども・子育て計画の評価はどのように行うのか。

事務局：毎年、点検を行い、大規模な事業の見直しは5年に1回の計画策定で行う。次回の12月の会議では、幼稚園や保育園などの状況についてお示しする予定である。

委員：事業が多いので、その中の一部の事業を12月に見させていただくというこ

とか。

事務局：そのとおりである。

委員：費用対効果があると思うが、12月の会議で、各事業について、どのぐらいの予算でというのは出せるのか。

事務局：次年度の予算は、12月から検討を始める。途中経過は出せるが、全体についてはまだ出せない。5、6月の会議で前年度の実績について出し、12月の会議で進捗状況を出している。

委員：P16の産後ケアは、いつから利用できるのか。

事務局：病院を退院後から利用できる。支援がない方は、事前に予約をしておいて、退院とともに利用することもできる。産後1年以内は、宿泊・日帰りともに7日以内の利用ができる。母子手帳交付の際、産後ケア事業については、全ての妊婦に情報提供している。県の助産師会の事業で妊婦を訪問する事業があり、こちらについても案内している。

委員：了解した。

(3) 特定教育・保育施設の利用定員等の変更について

事務局より、ひがし保育園の定員の変更、認定こども園らのみなの創設、認定こども園ぼだい樹・西こども園・さくらの木の定員変更について説明。

委員：待機児童9名の年齢は。

事務局：待機児童は令和2年4月1日現在で、0歳児・3歳児・4歳児は各1名。1歳児・2歳児は各3名。母の育児休暇明けの1歳児や、きょうだいに1歳児がいるご家庭の待機児童が多い。3・4歳児は幼稚園も選べるが、保育園を希望される保護者が多い。保育士は不足している状況。また、新しい生活様式を求められていることから、園では、「密」を防ぐため、「子どもの安全」・「働いている人の安全」を考えた結果、利用定員を減らすこととなった。来年も同規模の預かり人数を確保できる見込みであり、ひがし保育園の増築や認定こども園らのみなの開設により、保育需要が伸びても対応できると考えている。国の基準では、就職活動中も保育園の入園を申し込めるため、優先順位が低い方が待機児童として残ってしまう。

委員：幼稚園に行かないで、家庭で子どもを見ている方もいるのか。

事務局：届出にそこまでの記載はないが、そういうこともあると考えている。幼児教育無償化の関係もあり、保育園の方が幼稚園より人気がある。市では、届け出があったものを待機児童とみている。

6 閉会